

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1990100016
法人名	社会福祉法人恵優会
事業所名	グループホーム青葉町日和
所在地	〒 400-0820 甲府市青葉町14-15 電話番号 055-236-5155

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年12月9日	評価確定日	平成21年1月13日

【情報提供票より】平成20年11月15日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	2人 非常勤 6人 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC 造り		
	2	階建ての	0 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	40,915 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(120,000円) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		0 円	

(4) 利用者の概要 平成20年11月15日 現在

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	82 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小宮山整形外科、七沢歯科医院、甲州訪問看護ステーション
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年12月24日

事業所は、南側に広い市営グラウンドがあり、比較的静かな住宅地の中に位置している。併設して、小規模多機能居宅介護施設があり、鉄骨造り1階は駐車場、2階にホームがある。管理者は、「待つ介護・一呼吸おいて見守る支援」の信念のもとに運営にあたっている。スタッフは理念をふまえ、管理者の介護姿勢を受けて、利用者を尊重しながら日々の支援にあたっている。利用者は温かい雰囲気の中で、お互いを気遣い合い、出来る力を発揮してスタッフと共に過ごしている。ホーム内は清潔に保たれ、飾り物や置き物など、細かい心遣いが感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ミーティングで、外部評価を職員全員で検討した。ケアプラン作成時には、家族の意見を入れる事。理念の見直し、外部評価の外部への周知などに取り組んでいた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) カンファレンスやミーティング時に、全職員で項目ごとに取り組み、評価を出した。見直し、反省、意見交換をしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 二か月に一度開催され、メンバーは、民生委員・包括支援センター・家族代表である。管理者が、毎回討議したい事を議題にしている。内容は、外部評価の改善点や、職員異動についてなど含まれ、充実した議論がなされている事が、議事録より伺われる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者が窓口となり、意見箱の設置、年2回家族へアンケート用紙を送り、要望の受付体制は整っている。要望があれば、迅速に、その都度対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 外出の際は、挨拶・言葉掛けに心がけ、又、近所の人たちがいる所へ散歩をするようにしている。管理者は様々な集会に出席し、ホームの話をして理解を深めてもらう事に努力している。自治会の行事参加が増え、近隣の人たちからの働きかけもあり、確実に地域との交流が深まっている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホーム青葉町日和

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本来の理念に、地域の人たちとの関わりの意義を加え、ホーム独自の理念を作りあげている。「住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを支えていく」という理念が、スタッフルームに掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時、職員全員で作った理念のため、意識が確実なものとなり、日々の支援にあたっている。散歩の折には、近所の人たちがいる所へ、出来るだけ足を運んだり、挨拶・言葉かけを沢山するように心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の納涼会が、前のグラウンドで開かれ参加した際、近所の人たちが話しかけてくれたり、見やすい席を提供してくれた。日和の忘年会に地域の人たちに参加してもらうため、呼びかけをする予定でいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	カンファレンスやミーティング時、全職員で評価を項目ごとに見直し、反省、意見交換をしている。改善すべき点を職員から出してもらっている。外部評価の改善点に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催され、民生委員・包括支援センター・家族代表が出席している。管理者が毎回、その時に討議したい事を議題として出している。内容は、外部評価の改善点や職員異動についてなども含まれ、充実した議論がなされている。将来は、多くの家族代表・職員・利用者も出席して、輪を広げたいと考えている。	○	家族代表が出席しやすい日時・曜日を選び、メンバーを増やして会議がなされる事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市担当者が1回出席している。返事は無いが、毎回会議録を送っている。看護師を紹介してもらったり、隣施設の小規模の運営も含めて相談をして、積極的に働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭収支、お便り、運営推進会議録を毎月送っている。お便り等は、訪問者にも配っている。写真掲示の場合は、必ず了解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口になり、何時でも、相談・意見を受け付けている。玄関に意見箱を設置している。家族会でアンケートを渡し、家族から要望や意見を出してもらい、可能な事はすぐに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、新人と離職者の時期を重ねている。新人の場合は、改めて紹介して、離職の場合は、さり気なく離れてもらい、利用者の気持ちの負担を避ける方法を取っている。「さようなら」のお別れの言葉は、言わない事としている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の育成勉強会があり、講師を招き、全職員が受講している。その他、法人外の研修は、パートの人も含めて、シフトを考慮に入れて、順次、参加している。研修記録は、いつでも閲覧出来る事になっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で一緒に勉強したスタッフ同士が、相互の事業所見学を行っている。又、研修内容で不明な点を同業者に相談しながら、積極的に関わりを深めている。認知症の実務者研修生を受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や利用者に見学に来てもらい、スタッフと馴染みの関係を作っている。入居して不安定な利用者には、スタッフを固定する事や、家族に来てもらい、気持ちの安定を図っている。隣施設のデイを利用して入居者の場合は、満足の様子が見られ、対応がスムーズに行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	文章書きの得意な利用者が、お便りにエッセイを載せている。スタッフは文章の表現の仕方や、挿絵のヒントを頂いている。又、料理の得意な利用者には、季節の料理を教えてもらい、日々の生活の関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に人生の師として尊敬し、支援する事を心掛けている。静かにいたい利用者には、歩き方や話しかけ方などに気を配っている。皆一緒に活動(散歩・体操)の場合は、自ら前向きになるように、配慮しながら働きかけをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング、カンファレンスで、ケアマネージャー・職員と共に話し合い、家族の希望、意見を参考にして介護計画を作成している。スタッフは徹底して、プランに沿っての支援に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月～6か月に1度のサイクルで見直しを行っている。その場合も、スタッフと共に評価して、家族の意見を参考にしている。変化がある時は、随時、管理者に伝え、申し送り時にスタッフに伝えられ、対応の確認を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出の際に、「ラーメンを食べたい」「喫茶店に寄りたい」などの希望に柔軟に対応している。管理者は、自治会や民生委員の集会に出席し、認知症の話をする事で、地域の人々の理解を得る事に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、かかりつけ医の受診は、家族が対応している。開設当初から、ホームの協力医である外科・歯科の先生に、一か月に一度、往診に来てもらっている。その他、24時間対応の内科のかかりつけ医を探していて、地域の開業医を検討中である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に家族・利用者に説明している。又、スタッフの認識も共有している。ターミナルケアが必要な利用者がホスピスに入院するまで、地域の医者に往診に来てもらったり、デイの看護師が加わり、ネットワークを利用しながら支援したこともある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生活歴や職歴を把握して、言葉かけに配慮している。呼びかけをする時は、姓名で呼んでいる。トイレ誘導は、利用者の行動を見て、さり気なく対応をしている。個人情報、スタッフルームにて管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員で活動する日課(体操・散歩)はあるものの、利用者のその日の状態・気分に合わせて支援している。朝食を摂る時間や、食事の摂り方など、利用者を見守り、さり気無く働きかけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が盛り付けを出来る範囲で行い、混乱している時は、最小限の援助をして、見守る様にしている。静かな、心地良い音楽を流して、雰囲気作りを心掛けている。利用者の食事の様子を見守りながら、丁寧に声かけをして、食事が進むのを支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴出来る。利用者の体調を考慮して、一週間に2～3回入浴するようにしている。午前中は外出活動のため、午後が入浴タイムになっている。必要に応じてシャワー浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お花の好きな利用者の案で、プランターに季節の花を植え、部屋に置いている。デイから来た利用者が多いので、合同(歌を歌う・ゲーム・散歩)でする事にスムーズに参加出来ている。雑誌・花・衣類など、買い物の同行の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、可能な限り、午前中に外出支援をしている。最近、百円均一の店に行き、店の人たちと顔馴染みになり、声かけをしてくれるようになった。年間の外出行事があり、実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は掛けていない。毎日、外出散歩をしているので、外に出る時は、スタッフを共にの意識があり、信頼関係が出来ている。たまに外に出る事があるが、近くを一周して戻って来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的実施し、災害発生時の役割分担も決めている。夜間対応については、訓練も行い、近所の消防団員や隣施設のスタッフにも協力を依頼しているが、職員間で具体策を検討するまでは至っていない。なお、今年中に、職員の出勤時間の計測を行い、連絡網の再整備に取り組む予定である。また、AEDを設置しているため、今後、ミーティング時や訓練などで、使用方法を徹底する予定である。	○	災害はいつ起こるか分からないため、夜間においても、確実な支援ができるよう、職員間で話し合う機会をもち、具体的な避難策等を検討することを期待したい。また、AEDについては、いざという時に職員が適切に使用できるよう、使用方法の徹底に早期に取り組まれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録にて、食事量を把握している。利用者に合わせて摂取形態になっている。食事後や散歩後の水分確保状況を把握して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に大きなテーブルが2台あり、活動の場になっている。壁際にソファが配置され、ゆったりと座る事が出来る。回廊式の廊下の所々に、アンティークの家具があり、利用者が、好みのお花や置物を置いている。全体的に清潔感があり、心地良い音楽も流れ、スタッフの心遣いが感じられる空間になっている		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好み、趣味を發揮した、統一された家具を置き、壁には絵を飾り、その人らしい部屋になっている。落ち着いて過ごせる様に工夫をしている。		